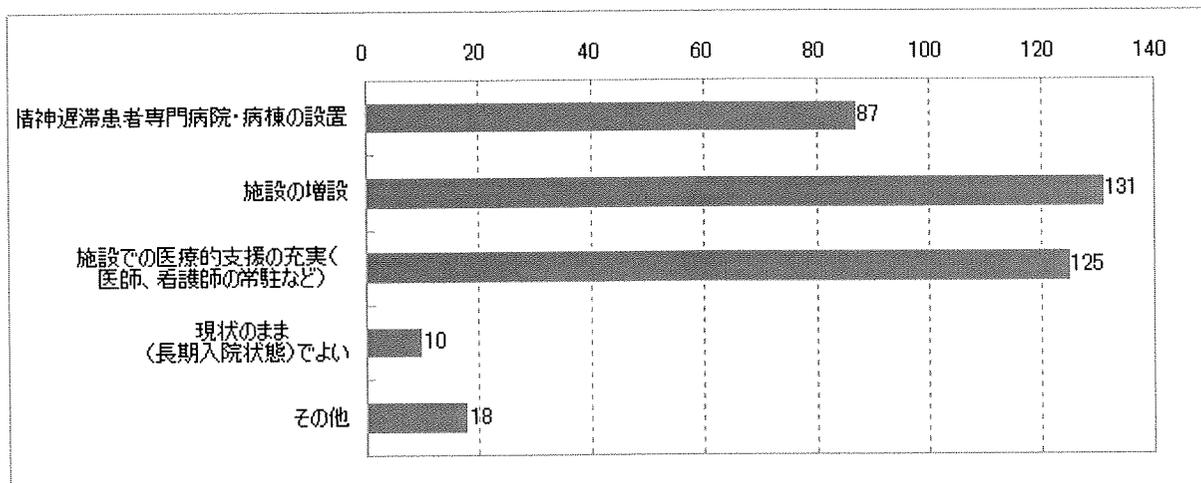


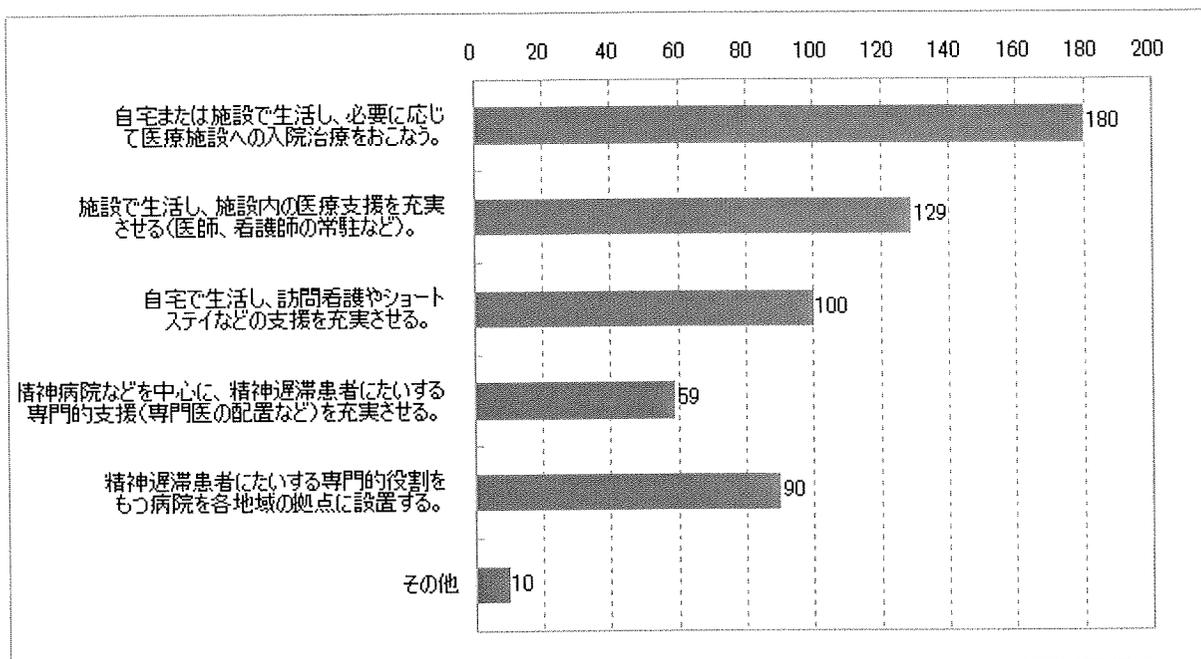
グラフ 12

必要な支援



グラフ 13

今後の方向性



資料

## 長期在院精神遅滞患者についてのアンケート調査

このアンケートは長期在院精神遅滞患者の現状を把握するためのものです。またこのアンケートは厚生労働省の「強度行動障害研究」の一環として行っており、結果をまとめて厚生労働省に報告し、行政施策に反映してもらう予定です。

このアンケートの対象は、肢体不自由はほとんどないか軽度であるが、行動上の問題、精神症状などを抱えている方で18歳以上の方を念頭においています。また長期在院患者とは調査時点で入院2年以上の患者とします。

※下記（大島の分類）をご参考下さい。

### 大島の分類(重症心身障害児・者)



病院名 \_\_\_\_\_

科名 \_\_\_\_\_

記入者職 \_\_\_\_\_、氏名 \_\_\_\_\_

問1 病院の規模・都道府県・立地都市の規模についてお答え下さい。

病床数 \_\_\_\_\_床 常勤医師数 \_\_\_\_\_名

都道府県 \_\_\_\_\_

立地都市の規模をお選び下さい。

1. 大都市（東京都区部と指定都市）
2. 中都市（人口10万人以上の市（大都市を除く））
3. それ以外（人口10万人未満の市および町村）

問2 ワンデイ調査――平成21年度中の調査しやすい1日をお選びください。

本アンケート記入対象年月日 平成21年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日

貴院の全入院患者数 \_\_\_\_\_名

長期在院精神遅滞患者数 \_\_\_\_\_名※

長期在院精神遅滞患者の併存診断名と人数（合計人数は※となるようにお願いします）

1. 精神遅滞（併存診断なし） \_\_\_\_\_名
2. 精神遅滞 かつ 自閉症 \_\_\_\_\_名
3. 精神遅滞 かつ 統合失調症 \_\_\_\_\_名
4. 精神遅滞 かつ 自閉症 かつ 統合失調症 \_\_\_\_\_名
5. 精神遅滞 かつ その他（ \_\_\_\_\_ ） \_\_\_\_\_名

長期在院精神遅滞患者の在院期間毎患者数（合計人数は※となるようにお願いします）

- a. 2年～ \_\_\_\_\_名、b. 3年～ \_\_\_\_\_名、c. 5年～ \_\_\_\_\_名、d. 10年～ \_\_\_\_\_名、  
e. 20年～ \_\_\_\_\_名、f. 30年～ \_\_\_\_\_名、g. 40年以上～ \_\_\_\_\_名

長期在院精神遅滞患者の隔離・拘束人数（合計人数は※となるようにお願いします）

- ア. 隔離・拘束はほとんどあるいは全く必要としない \_\_\_\_\_名  
イ. 時々（月に1回以上）隔離または拘束を必要とする \_\_\_\_\_名  
ウ. 頻回（月に10回以上）隔離または拘束を必要とする \_\_\_\_\_名  
エ. ほとんどあるいは毎日隔離または拘束を必要とする \_\_\_\_\_名

問3 長期在院精神遅滞患者の医療の必要性についてお選び下さい。

（個々の長期在院精神遅滞患者について当てはまるものをお選びください。A,Bの合計人数は※となるようにお願いします。）

A、医療上入院管理が必要 計 \_\_\_\_\_名

医療管理の内容をお答え下さい（重複回答可）

1. 行動障害；ひどい自傷 \_\_\_\_\_名
2. 行動障害；強い他害 \_\_\_\_\_名
3. 行動障害；激しいこだわり \_\_\_\_\_名
4. 行動障害；激しい物壊し \_\_\_\_\_名
5. 行動障害；睡眠の大きな乱れ \_\_\_\_\_名
6. 行動障害；食事関係の強い障害（異食・多飲水など） \_\_\_\_\_名
7. 行動障害；排泄関係の強い障害 \_\_\_\_\_名
8. 行動障害；著しい多動・飛び出し \_\_\_\_\_名
9. 行動障害；著しい騒がしさ \_\_\_\_\_名
10. 行動障害；その他 \_\_\_\_\_名  
その他 \_\_\_\_\_名



III. 研究成果の刊行に関する一覧表

著書

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
井上雅彦 三田地真実 岡村章司	応用行動分析学の基礎からサポートネットワーク作りまで	井上雅彦 三田地真実 岡村章司	子育てに生かすABAハンドブック	日本文化科学社	東京	2009	3-142
井上雅彦	自閉症のある子どもの余暇活動の支援	安達潤編者 石井哲監修	発達障害の臨床的理解と支援3学齢期の理解と支援	金子書房	東京	2009	149-158
井上雅彦	自閉症スペクトラムのある人に余暇スキルを教える	安達潤編者 石井哲監修	発達障害の臨床的理解と支援3学齢期の理解と支援	金子書房	東京	2009	159-165
井上雅彦	自閉症児の教育	富永光昭 平賀健太郎	特別支援教育の現状・課題・未来	ミネルヴァ書房	京都	2009	
井上雅彦	心理教育的援助サービス	安齊順子 荷方邦夫	使える教育心理学	北樹出版	東京	2009	
大塚 晃	子どもと家族を支える福祉について		心の科学、第145号	日本評論者		2009	
大塚 晃	障害者自立支援法見直しの背景とポイント		月刊福祉9月号	全国社会福祉協議会出版部		2009	
安達潤	学校の中の資源を活用する特別支援教育を推進するための学校資源の活用	安達潤編者 石井哲監修	発達障害の臨床的理解と支援3学齢期の理解と支援	金子書房	東京	2009	1-17
辻井正次	発達障害のある子どもたちの家庭と学校(1)発達障害があるということ		子どもの心と学校臨床	遠見書房		2009	1

	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
井上雅彦	自閉症に対するエビデンスに基づく実践を我が国に定着させるための戦略	行動分析学研究	23(2)	173-183	2009
井上雅彦	自閉症における応用行動分析学からのアプローチとそのエビデンス 精神療法・心理社会療法ガイドライン	精神科治療学 2	24.増刊号	306-307	2009
井上雅彦, 大羽 沢子 猪子 秀太郎 梅川康治 真城知己	特別支援教育のための応用行動分析学の適用：子どもと教師が変わる効果的な研修プログラム(準備委員会企画シンポジウム5,日本特殊教育学会第46回大会シンポジウム報告)	特殊教育学研究	46(5)	346-347	2009
井上雅彦	発達障害のある子どもが集団のルールで動けるために	児童心理	63(18)	100-105	2009
井上雅彦	広汎性発達障害のある子どもの感情理解と表現への支援	児童心理	63(7),	663~667	2009
井上暁子 井上雅彦	強いこだわりを持つ自閉症生徒に対するセルフマネジメント手続きを利用したカウンセリング	明和学園短期大学紀要	18	69-76	2009
渡部匡隆 岡村章司 安達潤 井上雅彦 衛藤裕司 小林重雄	広汎性発達障害の治療教育プログラムの展開(2)：社会性の障害とその支援を中心に(自主シンポジウム15,日本特殊教育学会第46回大会シンポジウム報告)	特殊教育学研究	46(5)	346-347	2009
満田健人 明翫光宜 辻井正次	PF スタディ反応における広汎性発達障害児と定型発達児の比較研究	小児の精神と神経	49(3)	221-230	2009
辻井正次	高機能広汎性発達障害の自己調整機能--支援の方向性に関する予備的検討.	中京大学現代社会学部紀要	2(2)	1-11	2009

川上ちひろ 辻井正次	思春期広汎性発達障害児の性行動の特徴と保護者のニーズの検討	小児の精神と神経	49(2)	163-170	2009
吉橋由香 藤田知加子 川上正浩 辻井正次	高機能広汎性発達障害の意味的ネットワーク構造の特徴--言語連想課題を用いた検討	小児の精神と神経	49(2)	149-161	2009
辻井正次	子どもたちの「できること」を伸ばす--発達障害のある子どものスキル・トレーニング実践(新連載・1)発達障害とともに生きること--スキル・トレーニングが必要なわけ	こころの科学	(146)	97-101	2009
辻井正次 伊藤沙智子	支援システム・支援グループ--NPO別冊発達法人アスペ・エルデの会の取り組みから(アスペルガー症候群の子どもの発達理解と発達援助)--(アスペルガー症候群の援助)	別冊発達	(30)	281-288	2009
辻井正次	子どもたちの「できること」を伸ばす--発達障害のある子どものスキル・トレーニング実践(2)日常で困ることの分析と準備--子どもたちが困ったときに前向きになるために.	こころの科学	(147)	115-121	2009
小泉晋一 辻井正次	子どもたちの「できること」を伸ばす--発達障害のある子どものスキル・トレーニング実践(3)子どもたちの身体をしる	こころの科学	(148)		2009
辻井正次	特別支援教育で始まる、子どもの〈苦手〉を〈得意〉にする工夫の仕方--通常学級にあたり前に発達障害の子どもたちが学んでいる現実の中で(通常学級で使える 特別支援教育実践のコツ)	児童心理	63(18)		2009
Suzuki K Nishimura K Sugihara G Nakamura K Tsuchiya KJ Matsumoto K Takebayashi K Isoda H, Sakahara H Sugiyama T Tsuji M Takei N Mori N.	Metabolite alterations in the hippocampus of high-functioning adult subjects with autism.	Int J Neuropsychopharmacol	9	1-6.	2009

Kajizuka M Miyachi T Matsuzaki H, Iwata K Shinmura C Suzuki K Suda S, Tsuchiya KJ Matsumoto K Iwata Y Nakamura K Tsuji M Sugiyama T Takei N Mori N	Serum levels of platelet-derived growth factor BB homodimers are increased in male children with autism.	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry	Oct 29		2009
Maekawa M Iwayama Y Nakamura K Sato M, Toyota T Ohnishi T Yamada K Miyachi T Tsuji M Hattori E, Maekawa N Maekawa N Mori N Yoshikawa T.	A novel missense mutation (Leu46Val) of PAX6 found in an autistic patient	Neurosci Lett.	Oct 25:462(3)	267-71.	2009
安達潤	子どもと家庭に向かい合うコンサルテーションとは	児童心理,		166-172	2009
安達潤 萩原拓	生涯にわたる支援の視点から学齢期における支援のあり方を考える	精神科治療学	24(10)	1211-1217	2009
安達潤 斉藤真善	自閉症スペクトラム障害とコミュニケーションリズム	言語	38(6)	42-49	2009

